

子宮頸がん検診

自分のために正しい選択を

TimeToCervicalScreen.nz

安全

正確



National
Cervical
Screening
Programme

ヒトパピローマウイルスと子宮頸がん

子宮頸がんの主な原因はヒトパピローマウイルス (HPV) です。これは肌の接触や性行為によって感染するごく一般的なウイルスであり、成人のほとんどが生涯で一度は感染します。

通常は感染してもウイルスが自然に排除されますが、そのまま体内にとどまることもあります。長い間感染したまましているとウイルスによって細胞変化が生じ、子宮頸がんが発生すると考えられています。また、体内に潜伏していたウイルスが、何年も経ってから活性化することもあります。検診結果が陽性だった場合、ウイルスに接触したのは何年も前のことかもしれません。そのため、長期間にわたり性的パートナーが一人しかいなかったり、セックスストレスであったりしても定期的な検診が必要です。

一般的に子宮頸がんは発症までに10年以上かかりますが、定期検診によって細胞変化のリスクが高い人を発見できるため、がん発症前の早期治療が可能です。

ウイルス感染から細胞変化、がん発症に至るまでには多くの段階を経ます。ヒトパピローマウイルスに感染しても、がんになるとは限りません。

子宮頸がんは予防しやすいがんであり、予防接種と定期検診の組み合わせで子宮頸がんの発症を最大限に抑えることができます。

受診者の約9割は陰性で次回の定期検診まで何の心配もありません。残り1割は陽性診断後に精密検査を受けます。

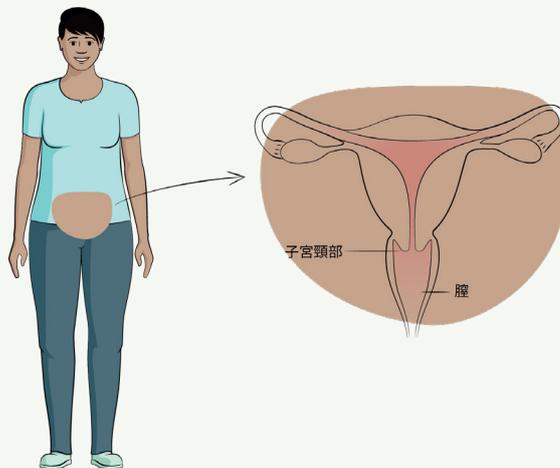
子宮頸がん検診について

HPVワクチンの接種と定期検診によって、子宮頸がんによる病変の進行や致死率が低減します。定期検診を受けることは最善の子宮頸がん対策です。あなたとご家族の健やかな未来のために National Cervical Screening Programme (NCSP: 全国子宮頸がん検診プログラム) に登録しましょう。

ほとんどの場合、定期検診は5年に1度です。さらに近年では自己採取の検査オプションも加わり、より気軽に子宮頸がん検診を受けられるようになりました。

HPV検査は非常に感度が高く、子宮頸がんの原因ウイルスを高い精度で検出します。前がん病変の発症リスクが高い1割の受診者を割り出し、子宮頸がんの早期治療と予防を可能にします。

新しい検査方法では、子宮頸がんの原因ウイルスであるヒトパピローマウイルス (HPV) の有無を確認します。HPVはごく一般的なウイルスですが、子宮頸がんの95%以上を引き起こします。子宮頸がん検診は、膣壁細胞の自己採取と医療従事者による子宮頸部の細胞採取のどちらも有効です。



子宮頸がん検診が必要な人は?

以下に該当する方には受診をお勧めします。

- 女性または子宮頸部のある方
- 25歳から69歳まで
- 過去に性交渉があった、または現在ある方

子宮全摘術 (子宮と子宮頸部の切除) を受けた方は、子宮頸がん検診が必要かどうかをかかりつけの医師にご確認ください。

子宮頸がん検診は妊婦にも安全です。子宮頸がん検診は生理中でも受けられますが、検査結果に影響を与えるため出血が多い時は避けてください。

子宮頸がん検診のオプション

子宮頸がん検診には二つのオプションがあり、膣壁細胞のスワブ検査 (自己採取または医療従事者の助けを借りる場合)、または子宮頸部の細胞採取 (従来の細胞診) のどちらかを選べます。

子宮頸がん検診 オプション1: 膣壁細胞のスワブ検査

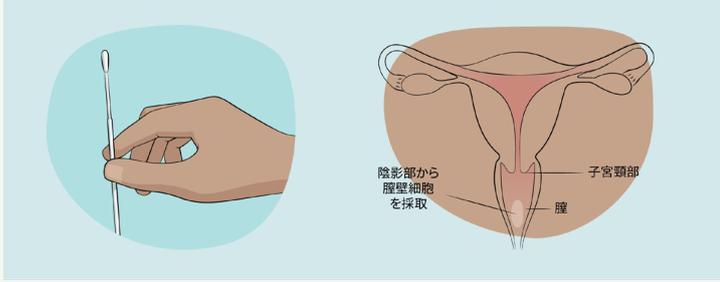
膣壁スワブ検査はほとんどの方に適していますが、不適切な方には別の検診オプションをお知らせします。

通常、自己採取は検診場所の個室で行います。各地域の公共施設や移動検診車が会場となる場合や、自宅での採取が可能な場合もあります。

膣壁スワブ検査に手助けが必要な方は、かかりつけの医療従事者に受診予約をしてください。

綿棒で膣壁をこすって細胞を採取し、ヒトパピローマウイルスの有無のみを検査します。

陽性の場合、ウイルスの種類に応じて、子宮頸部の細胞採取(従来の細胞診)によって細胞変化を確認するか、膣鏡診で子宮頸部に治療が必要な変化があるかどうかを確認します。



陰性の場合、次回の検診は5年後(免疫不全患者の場合は3年後)になります。

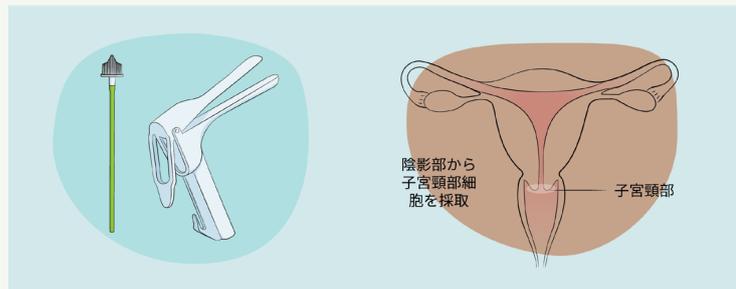
膣壁スワブ検査の詳細は www.CervicalSelfTest.nz をご覧ください。

子宮頸がん検診 オプション2:子宮頸部の細胞採取

これは従来の細胞診であり、一部の該当者と希望者が受診できます。

診療所、各地の公共施設、または移動検診車において、訓練を受けた医療従事者が検査を行います。

医療従事者はブラシやヘラで子宮頸部をこすり、細胞を採取します。採取された細胞で、まずヒトパピローマウイルスの有無を検査します。



陽性の場合、同一検体で細胞変化を確認し、その結果によっては、子宮頸部に治療が必要な変化があるかどうかを確認する膣鏡診を受けることになります。

陰性の場合、次回の検診は5年後(免疫不全患者の場合は3年後)になります。

子宮頸部の細胞採取に関する詳細は www.CervicalSample.nz をご覧ください。

子宮頸がん検診プログラムに参加するには?

該当者が25歳になるか、子宮頸がん検診を初受診すると自動的にプログラムへ登録されます。

NCSP-Register(全国子宮頸がん検診プログラム)に登録している方には、登録・再診・定期健診のお知らせをお送りします。登録についてご不明な点は **0800 729 729** までお問い合わせください。

無料検診の対象者は?

National Cervical Screening Programme (NCSP:全国子宮頸がん検診プログラム)は政府全額負担の医療制度ではありませんが、以下に該当する方々は無料で受診できます。

- 過去に子宮頸がん検診を受けたことがない、あるいは定期検診を毎回受けていない30歳以上の方
- フォローアップ検査が必要な方
- コミュニティサービスカードの所持者
- マオリ系またはポリネシア系の方

子宮頸がん検診を受ける場所は?

以下の中から選べます。

- かかりつけの診療所の医師や看護師
- マオリ系・ポリネシア系・女性向けの地域保健センター
- マラエや移動検診車などの訪問医療サービス
- 家族計画クリニック
- セクシャルヘルス関連医療サービス(受診の一環として)

医療従事者によっては、自宅のできる自己採取キットを配布しています。この方法が自分に合っていると思われる方はご相談ください。

受診時に家族や友人を同伴することもできます。通訳が必要な方や、何らかの支援が必要な障がいをお持ちの方は、予約時にお知らせください。

詳しくは

検診プログラム、ヒトパピローマウイルス、子宮頸がん、検診オプション、予約受付に関する詳細は、www.TimeToCervicalScreen.nz をご覧いただくか、お電話(フリーダイヤル:**0800 729 729**、月~金 8am~8pm、土 9am~1pm) または電子メール (screening@health.govt.nz) でお問い合わせください。

聴覚障がい・難聴・視聴覚障がい・言語障がいのある方、または話すことが苦手な方は、New Zealand Relay Service (www.nzrelay.co.nz) をご利用ください。

TimeToCervicalScreen.nz



Health New Zealand
Te Whatu Ora



Te Kāwanatanga
o Aotearoa
New Zealand Government